平成26年12月10日（水）
（公財）石川県埋蔵文化財センター
担当：調査部国関係調査グループ
伊藤雅文
電話：076-229-4477

小松市一針（ひとつはり）Ｃ遺跡の発掘調査概要および現地説明会開催の案内について

公益財団法人石川県埋蔵文化財センターが発掘調査を進めている、小松市一針Ｃ遺跡の調査概要について、以下のとおり公表します。

１　所在地等

（１）調　査　地　小松市一針町地内

（２）関 係 機 関　国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所

（３）調 査 原 因　梯川改修　築堤工事

（４）調 査 主 体　石川県教育委員会
調査担当：公益財団法人石川県埋蔵文化財センター

（５）調 査 期 間　平成 26 年 5 月 12 日～同年 12 月（予定）

（６）調 査 面 積　8,500 ㎡（予定）

２　調査の概要

（１）概　要

一針Ｃ遺跡は、小松市北部を流れる梯川中流域の右岸に位置する弥生時代～中世の集落跡である。現在、５区（Ａ～Ｅ区）ある調査区の内、Ａ・Ｂ区の調査を終了している。今年度の調査では、前年度調査同様、梯川の旧流路などの影響から上下２面の遺構面が想定される範囲（Ｂ・Ｄ・Ｅ区）と、弥生時代～中世の遺構が密集する範囲（Ａ・Ｃ区）を確認しており、Ａ・Ｃ区において、特に遺構が集中する傾向がうかがえる。

（２）調査成果

弥生時代：前年度の調査では、土坑や川跡を確認しており、今年度は新たに環濠と想定される幅３ｍ前後の溝や平地式建物（へいちしきたてもの）周溝のほか、土坑墓（どこうぼ）の可能性をもつ長方形や楕円形の土坑群などの遺構を確認している。遺物は、弥生土器や石斧、勾玉、玉作り関連遺物などが多量に出土している。

古　代　：掘立柱建物（ほったてばしらたてもの）の柱穴や大型土坑、畝溝、梯川の旧流路を確認している。遺物は、土師器や須恵器、鉄滓などが出土している。

中　世　：前年度の調査では、掘立柱建物や板状の石を方形に組み合わせた　井戸などを確認しており、今年度は新たに多数の掘立柱建物や井戸、溝、土坑、竪穴状遺構（たてあなじょういこう）、畦状遺構、柵列などを検出した。

特に井戸からは宝篋印塔（ほうきょういんとう）や石臼、漆器椀、柄付き包丁、木製農具の一部や箸、曲物など様々な遺物が出土している。そのほか、珠洲焼や青磁、銅銭などが出土した。

（３）まとめ

今年度の調査では、特に、環濠と想定される区画溝をもつ弥生時代の集落域や墓域の様相と変遷を具体的に把握することができた。

その様相や時期から、南西 2.5ｋｍに位置し、中期に拠点集落として存在した八日市地方遺跡が衰退期を迎えた、中期後葉に一針Ｃ遺跡は成立し、終末期まで集落が存続している。北に近接し、同時期に集落を営む一針Ｂ遺跡とともに、梯川中流域の中心となる集落としての役割を担っていた可能性が考えられる。

《　用語解説　》

・環　濠（かんごう）

住居群をとりまくように巡る堀により集落内外を区画することで、防御的役割や集落内のまとまりを示すなどの性格が想定される。

小松駅周辺に広がる八日市地方遺跡や金沢市戸水Ｂ遺跡、中屋サワ遺跡などにおいても弥生時代中期の環濠が確認されている。

３　現地説明会

（１）日　　時　平成26年12月14日（日）午前11時～正午（１時間程度、小雨実施）

（２）場　　所　小松市一針Ｃ遺跡発掘調査現場

（３）目　　的　遺跡発掘調査の成果を公開する

（４）対　　象　県民、考古学に関心のある方

（５）内　　容　発掘調査の概要説明と出土品の公開

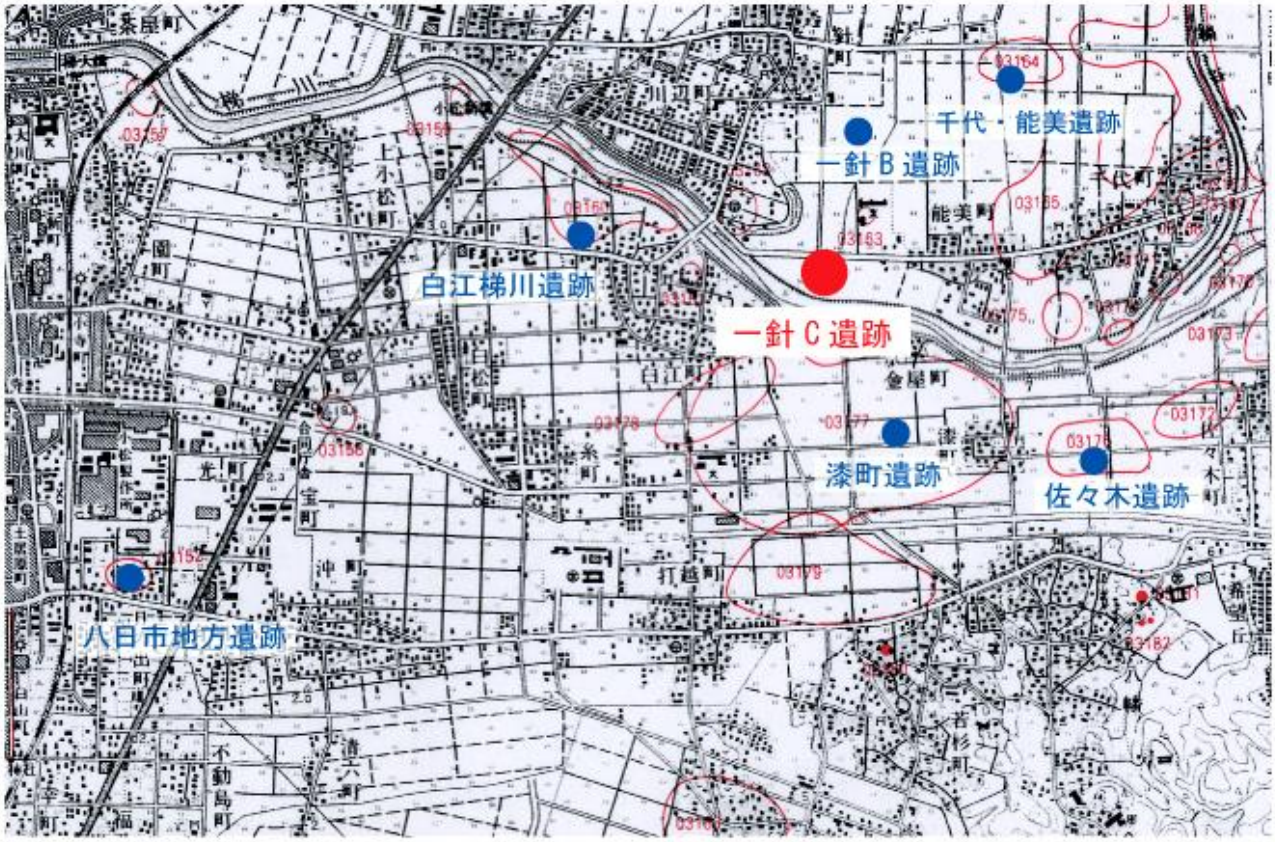
（６）主　　催　石川県教育委員会・公益財団法人石川県埋蔵文化財センター

（７）問合せ先　○（公財）石川県埋蔵文化財センター　調査部 国関係調査グループ

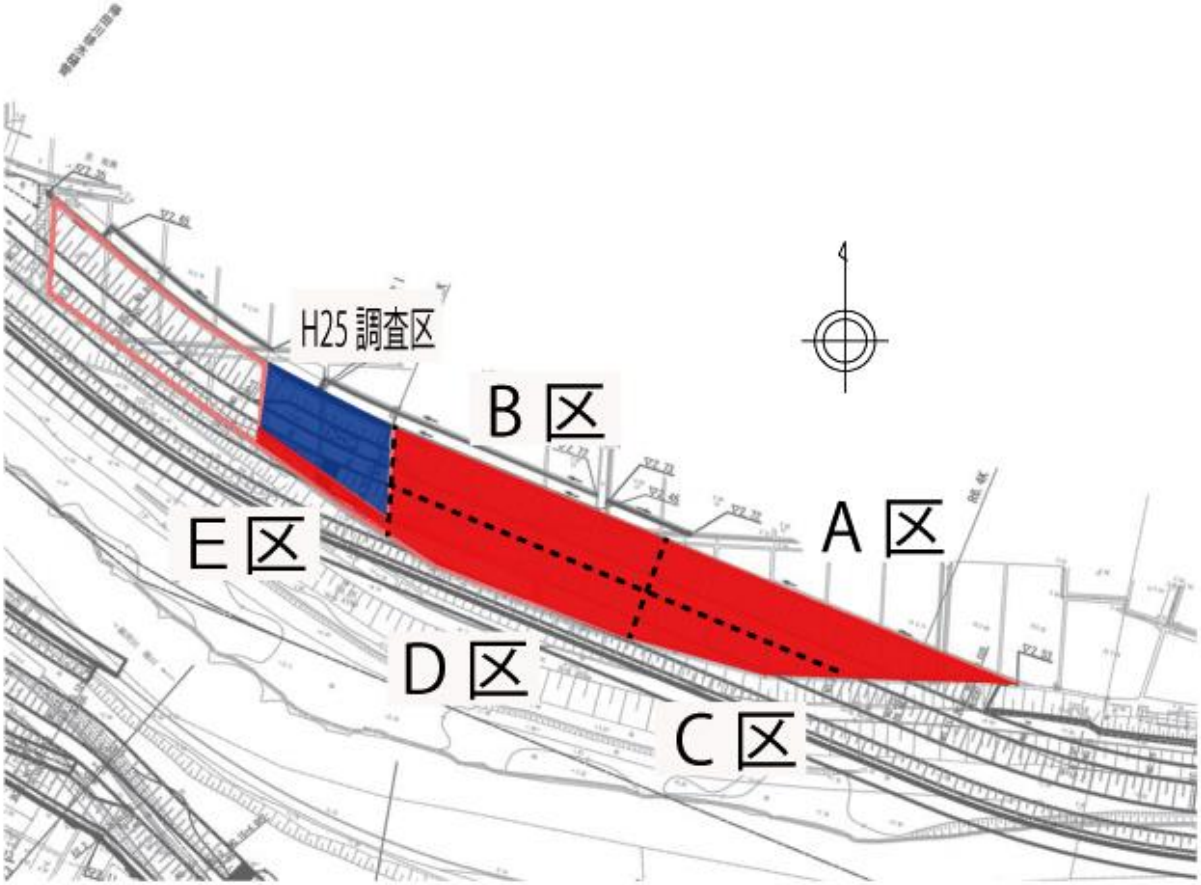
電話　０７６－２２９－４４７７（内線６５４０）

○石川県教育委員会事務局文化財課　埋蔵文化財グループ

電話　０７６－２２５－１８４２（内線５６２９）



一針C遺跡と周辺の遺跡位置図（S=1/25,000）



調査区割図

Ａ・Ｂ区全景（南東から）

環濠と想定される溝（弥生時代）

平地式建物調査風景（弥生時代）

土坑墓の弥生土器出土状況（弥生時代）

一針 C 遺跡の位置